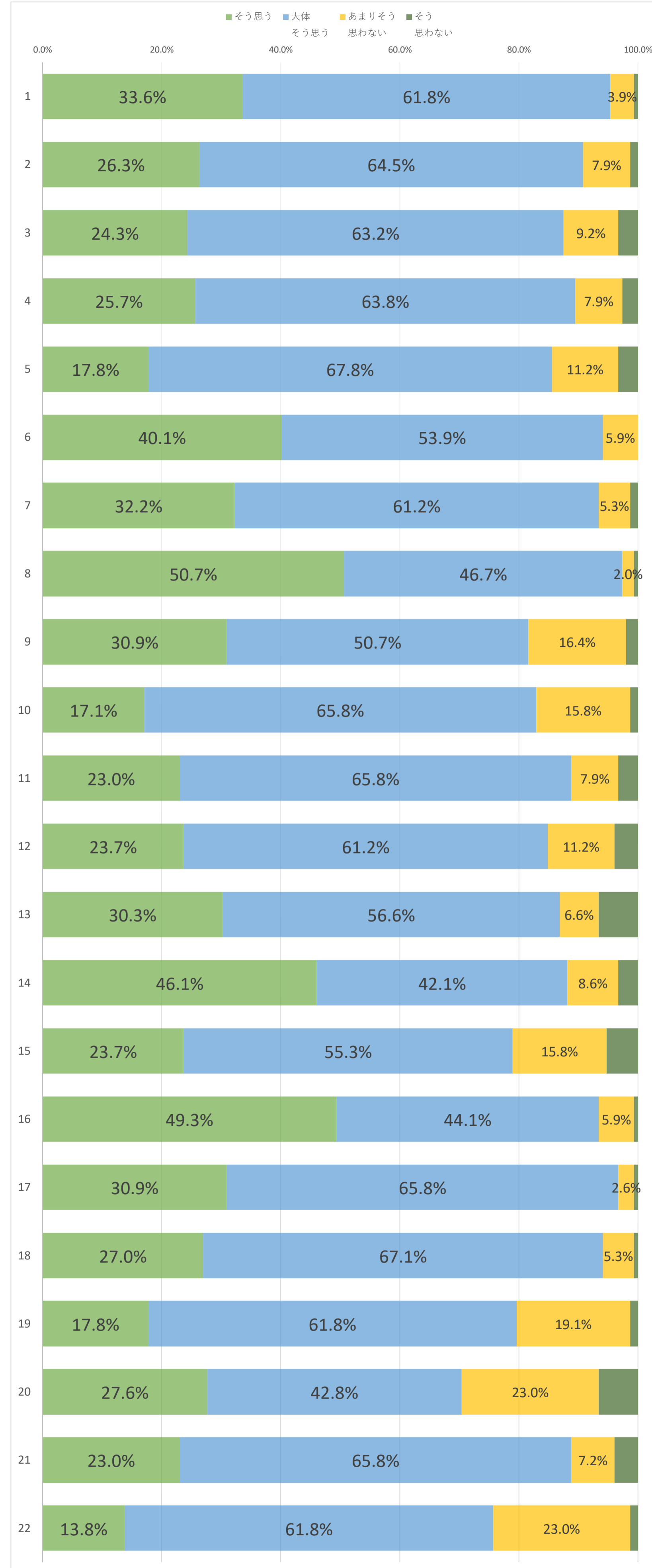


令和5年度 「よりよい学校づくりアンケート」学校評価アンケート（保護者）

	そう思う	大体 そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない
1 学校は教育目標や方針、活動をわかりやすく伝えている。	33.6%	61.8%	3.9%	0.7%
2 学校は様々な行事や体験を通じて、児童の「生きる力」を伸ばそうと努力している	26.3%	64.5%	7.9%	1.3%
3 学校は、施設・設備の安全管理や校舎内外の美化等、環境の整備に努めている。	24.3%	63.2%	9.2%	3.3%
4 学校は、保護者や地域の期待に応える教育活動を行おうと努めている。	25.7%	63.8%	7.9%	2.6%
5 学校は、いじめのない学校づくりに努めている。	17.8%	67.8%	11.2%	3.3%
6 学校は、保護者や地域の方々に学習や行事を参観する場を設けている。	40.1%	53.9%	5.9%	0.0%
7 学校は、学校だより等で家庭や地域へ、情報を積極的に提供している。	32.2%	61.2%	5.3%	1.3%
8 学校は、栄養のバランスや食の安全に配慮して、給食を提供するなど、健康の保持増進を図っている。	50.7%	46.7%	2.0%	0.7%
9 学校は、読書活動を充実しようと努めている。	30.9%	50.7%	16.4%	2.0%
10 教職員は、ICTを活用して、授業を行っている。	17.1%	65.8%	15.8%	1.3%
11 教職員は、主体的・対話的で深い学びを意識して、授業改善に努めている。	23.0%	65.8%	7.9%	3.3%
12 教職員は、子供をよく理解し、相談・支援・指導を適切に行っている。	23.7%	61.2%	11.2%	3.9%
13 教員は、熱心に授業に取り組み、適切に評価している。	30.3%	56.6%	6.6%	6.6%
14 子供は、学校に楽しく通っている。	46.1%	42.1%	8.6%	3.3%
15 子供は、学習内容をよく理解している。	23.7%	55.3%	15.8%	5.3%
16 子供は、学校行事や学習活動に積極的に参加している。	49.3%	44.1%	5.9%	0.7%
17 子供は、思いやりの心をもって人に接している。	30.9%	65.8%	2.6%	0.7%
18 子供は、公共の場でのマナーが守れている。	27.0%	67.1%	5.3%	0.7%
19 子供は、挨拶・時間を守ること・正しい言葉遣いができる。	17.8%	61.8%	19.1%	1.3%
20 子供は、自分から宿題や家庭学習を行っている。	27.6%	42.8%	23.0%	6.6%
21 学校は、感染症防止対策に努めている。	23.0%	65.8%	7.2%	3.9%
22 湖北中学校区では、小中一貫教育の充実に努めている。 ・Abi☆小中一貫カリキュラムに関する実践（Abi-ふるさと・Abi-キャリア） ・小中一貫の日や、その他の交流活動 等	13.8%	61.8%	23.0%	1.3%



<アンケートの結果から>

1～5については、前年とほぼ同じ。
6については、参観の機会が増加したため、前年よりも肯定的な回答が多かった。
9・10・11の読書活動・ICT活用・授業改善については、全体的に肯定的だが、どの項目も「だいたいそう思う」の割合が多い。しかし、「あまりそう思わない」「そう思わない」の回答が前年より若干増加している。
12・13に関しては、個に応じた対応や適正な評価については、おおむね肯定的で、否定的な意見が前年より若干減少した。
14～16に関しては前年より肯定的な意見が若干減少している。
18では、公共のマナーは守れているが、19では、挨拶や言葉遣いが正しくないと思う保護者が、20.4%と否定的回答が目立つ。
20については、家庭学習の実施に関する否定的な回答は、29.6%と一番多かった。
22の小中一貫教育の充実については、肯定的な意見が75.6%で、否定的な意見が24.3%と全体の割合に比べると多い。

<成果と課題>

まず、アンケートをフォームで行ったことで、保護者の本音がみられるようになった。意見を真摯に受け止め、保護者とともに解決する課題としてとらえ、改善に取り組んでいきたい。
1から4の学校の取り組みについては、昨年同様の成果というところから、今後もホームページや学校だより、スクリレ等を通じて、情報発信が滞ることのないように、地域や保護者に伝えていきたい。
5のいじめのない学校づくりに関しては、昨年とほぼ同様の結果になったが、否定的な意見の減少を目指し、いじめ防止基本方針に基づいて、これまで以上に早期発見・早期対応、組織的に解決する体制を整備し、改善していく。
6の参観行事は、昨年以上にできるだけ実施した。感染対策やここ数年の実施形態への慣れのせいか、本来の実施形態を知っている保護者にとっては、不完全で不満な内容となる部分もあった。以前に全て戻すことだけにとられずに、児童にとって教育的な意義があるものを精選したり、新しい実施形態を作ったりすると同時に、単に効率や体裁だけにこだわらない、児童も教員も保護者も地域も満足できるよう努力する。
9・10・11に関して、読書活動については、校内の国語の研究と合わせて、継続的に実施することで成果を上げていく。ICTの活用については、ICT支援員と研修を重ね、どの教員も同じスキルを持てること、どの学級でも差がないような活用をすることを目標としていく。活用の機会や頻度も増やして学力向上の一助としたい。
18の公共マナーについては、ここ数年同様の結果となっている。自転車の乗り方や歩道の歩き方については、一部の学年で交通安全教室を復活させ、意識の向上を図った。
19の時間を守ることや正しい言葉遣いに関しては、わが身から、教員自身の意識向上や保護者へのお願い、地域や学校一体となって指導するよう呼び掛けていく。
20家庭学習については、前年度からは否定的な意見は減少したが、満足してはいけない現状がある。家庭学習の習慣化についてはさらなる努力が必要となる。学力向上を目指すには学校の取り組みだけではなく、学校と家庭の連携が必要不可欠である。
22小中一貫教育については、否定的な意見は減少したが、内容的にも認知度もまだ十分でないので、中学校区での連携を密にし、充実を目指していく。また、学校だより等でも保護者に発信していく必要がある。